

【市政モニターアンケート集計結果】

(実施課)環境課 (調査期間)平成22年9月6日(月)～9月15日(水)

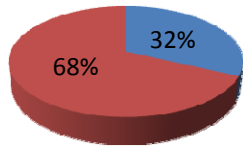
(調査対象)平成21・22年度市政モニター97人

(調査方法)郵便・FAX・電子メールを通じてアンケートに回答 (回答者数)92人

	分析内容	参照グラフ
1	【環境基本計画について】 * 7割近い方が別府市環境基本計画を知らない。 → 広報不足、周知不足。	G1
2	【環境施策を推進する上での参考事項】 * 環境保全上の規制に対して容認する意識が非常に高く(約99%)、それに伴う罰金に対しても寛容である(約82%)。 → 近年、市民のモラル意識の低下から社会的ルールを法令化してでも、環境を守ることが大切だという意識が高いことを示している。	G2,G3
	* 環境保全に対する予算拡充に対して容認する意見が58%と高い中で、必要最低限という意見も3割存在する。 → 環境は大事なことなので環境保全予算の配分を増やすのは理解できるが、生活に直結している事業(医療や教育)に充てる必要もあるという考えが見て取れる。	G4
	* 環境保全活動に参加する意識が低く、約9割の方が参加に対して消極的である。 → 環境ボランティア活動に慣れていないのか、コミュニティの不足等が考えられる。	G5
	* 環境を良くするための方法として、まず子どものときからの環境教育を一番に挙げる方が6割を超える。 → 子どもの時から環境保全意識を積み上げていかないと、大人になってからでは、なかなか浸透しないと感じている人が多いことを示唆している。	G6
3	【環境新聞の発行について】 * 環境新聞を見た方の割合は4割(約42%)。 → 広報不足(広報展開に限界あり?)、印象不足が想定される。	G7
	* 読者の中には現状のままを支持する方が多いが、反面、以前のA3版白黒(全戸配布)を良いという方も半数存在した(約53%)。 → 要望の声が多数あれば、町内回覧の効果も再検証した上、見直し(予算措置)を検討したい。	G8
総括	まず別府市環境基本計画の認知度については、本課の周知不足が如実に数字に表れていると感じられました。現在、その第2次計画を策定中ですが、策定後には市民に広く知ってもらうための広報活動を確実に実施していきたいと考えています。 また、その計画(施策)を遂行していく上で、一つの参考となる方向性も見えてきました。環境保全に対する予算化への支持、規制への容認や子供への環境教育の推進を環境施策に反映していきたいと考えています。 一方、環境保全活動に参加する意識が低いため、その浸透も含めて学習会や環境イベントの開催、広報誌の活用などの展開も検討していきたいと考えています。なお、環境新聞のあり方については今後の読者の反応と費用対効果を勘案して、見直しも含め再考したいと思っております。	

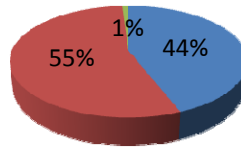
【参照グラフ】

G1)別府市環境基本計画の
認知度



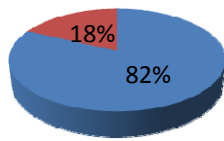
- よく知っている、ある程度知っている 32%
- 聞いたことはあるが・・・、全く知らない 68%

G2)環境保全上の規制
への容認



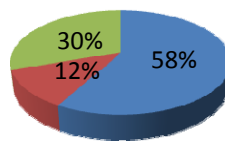
- 規制は大いにすべきである 44%
- 規制はある程度仕方ない 55%
- 規制しない方がよい 1%

G3)規制に対する罰金条項
への抵抗感



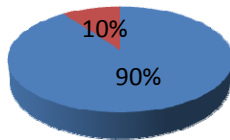
- 規制に対する罰金に同意する 82%
- 罰金は無い方がよい 18%

G4)環境保全予算に対する
意識



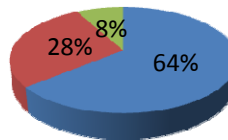
- 環境保全予算配分を大いに充てるべき 58%
- 環境保全予算よりも他の事業へ 12%
- 環境保全予算配分は必要最低限 30%

G5)環境保全活動
への参加意識



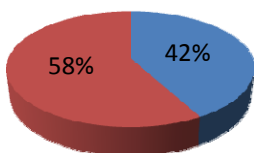
- 環境保全活動に参加したくない、あまり参加したくない 90%
- 他人に任せて不参加 10%

G6)環境を良くするために
必要なこと



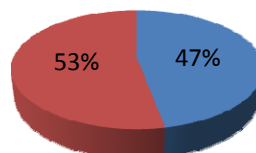
- 環境保全するためには環境教育が大事 64%
- 環境保全するためには広報やアピールが必要 28%
- その他 8%

G7)環境新聞の浸透度



- 環境新聞を見たことがある 42%
- 環境新聞を見たことがない 58%

G8)読者の感想



- 町内回覧でA4カラー印刷 47%
- 全戸配布でA3黒黒印刷 53%